

県政記者クラブで合同会見 コメント

今回風力発電について数回の勉強会をしたことが大垣市の平穏な生活を脅かすのでしょうか。反対でしょう。貴職らのしたことが住民の生活と安全を守るための運動を阻害するものです。特定の個人名を挙げ、さも危険人物のように企業に説明したことは、全く許されることではありません。大きな怒りを感じます。

今から 114 年前に警察によりでっち上げられて大逆事件に連座させられた高木顕明という真宗大谷派の僧侶がおられます。今回の警察のやり方は大逆事件を思い起こさせ、怖さを感じました。また、垂井町には日中戦争当初に「戦争は罪悪である」と発言し逮捕された先輩がおられます。二人に言えることは「いのち」に向き合っ出てきた言葉であり行動です。命をいただき、今ここに生きていることの尊さ、尊厳を訴えられた方です。私は二人のような生き方をしたいと願っています。

私のしていることはこの二人と比べることもできないほどの小さなことです。 「自然にやさしいクリーンなエネルギー」を謳い文句にする風力発電の裏に潜む様々な問題を、5 回の勉強会で知ることができました。問題が山積みであるからこそ住民の皆さんに勉強会への参加を呼びかけ、知ってもらおうとしたことが、何故「平穏な暮らしを壊す」ことになるのでしょうか。そして、何故公権力である警察が、利益を求め一企業に情報を流すのでしょうか。平穏な暮らしを壊すのは風力発電です。企業は金儲けが仕事です。そのためには公権力までも巻き込んで住民を貶めるのも厭わないということなのでしょうか。

今回の警察とシーテックの行動は絶対に許すことはできません。両者に、正式に謝罪を求め、事実を明らかにするよう求めます。

いのち・自然・暮らしを守るために今後も、一住民として、また真宗大谷派の僧侶としての立場で運動を続ける覚悟です。

2014 年 7 月 31 日

大垣市上石津町

松島勢至